平成 23 年度　米子工業高等学校　第三者評価　評価書

【講評】

平成２３年度には校舎が新設され、新たな学校運営がスタートしている。校舎や設備はすばらしく、恵まれた環境の中で学力向上を目指してさまざまな取り組みがなされている。また、教員一人ひとりの教育に対する情熱を感じることができるので、今後学校全体の活力を高め、教育実践における成果を期待したい。

一方、「地域社会・産業界に貢献する人材育成」をミッションとして掲げ、学校全体で共有して取り組もうとしているが、不十分な面が見受けられる。各教員が趣旨を十分に理解し、教育実践に反映出来るような環境作りを行っていくことが重要だと思われる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

① 全国的に誇れる優れた施設・設備が整備されている。今後も教育委員会や関係機関との連携を密に取り合い、効率の良い活用・維持管理を継続していくことが必要である。今後、これらの施設設備を各教員の研修によるスキルアップや不断の創意工夫によって有効に活用し、教育成果を上げて全国レベルの先進的な工業高校を目指すことが期待される。

② 工業高校として伝統にはぐくまれ、高い学力やすぐれた運動能力を持つ優秀な生徒をたくさん輩出してきた。近年、基礎学力の低下や、運動能力の低下による部活動のあり方が課題となっているが、そのような実態の中で、生徒一人ひとりに対応した指導方法の工夫やより高い教育内容を目指す取り組みにより、個性に応じた能力の伸張が期待される。

③ インターンシップの取り組みにおいてはその重要性を認識し、受入事業所の確保や手引きの作成、事前指導に積極的に取り組んでいる。そして、この取り組みを行う中で地域との交流・連携を密にし、鳥取県西部・中海圏の中核的な工業高校としてさらに優秀な人材を数多く育て上げていくことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

① 生徒による授業評価を学校全体で適切に実施し、その結果を十分に生かして、指導内容・指導技術・指導体制のスパイラルアップを図る必要がある。

② 環境を大切にする人材育成をめざし、５Ｓの徹底、環境宣言の計画などに取り組んでいるが、生徒・教職員ともにその意識に不十分な面が見られる。指導計画を見直すとともに、生徒や教職員が意欲的に取り組んでいる状況が確認できるようにして、学校全体の意識向上を図る必要がある。また、環境活動についてはものづくりの観点から生徒・教職員が一体となって考えていくことも必要である。

③ 校務分掌や主任体制は整然と整えられているが、学校の重点目標項目を達成するための組織運営が各分掌の活動に任されており、指導全体における各分掌の役割や教職員の連携などがはっきり示されていない。そのため、生徒への指導で不十分な面が見られる。今一度教職員の共通認識を図り、生徒の活動や保護者・地域との連携も含めた学校全体としての指導体制を整える必要がある。

④ 保護者への情報発信が不十分であり、学校の様子がよく伝わらないという保護者の声がある。考えられる様々な手段を講じて、学校情報の発信を行う必要がある。